

Career Up Stage

子どもの進路に対する親の姿勢・心構え等を載せます。よりよい進路選択は、親と子どもが共に考え、先生との相談も必要です。

親子で考える進路

進路への父母の姿勢

子どもの進路に対する父母の考え方や態度には、いろいろなタイプがあります。次にあげる①～⑩のタイプで、自分たちの家庭ではどれに近いか確認してみてください。

一番大切なことは、子どものことを第一に考えて進路決定することです。

- ① 一任型
「学校(先生)にお任せします」
- ② 放任型
「本人に任せます」
- ③ 場あたり型
「進路決定時になってから決めます」
- ④ 入試一本やり型
「将来の職業についてはまだ考えていません。とにかく、入試を突破させなければ」
- ⑤ 世襲同門型
「私があこの学校、上の子もあこの学校を出たので」
- ⑥ 無理矢理型
「何が何でもあこの高校(伝統校)に入らなければ」
- ⑦ 世間体型
「県立高校ならどこでもよい。不合格したらどうも」
- ⑧ 悲願委任型
「私は行けなかったもので、せめて子どもだけは」

- ⑨ 封建的強制型
「親が勝手に子どもの将来を決めて押しつける」
- ⑩ 客観的理想型
「親も子どもも共に考え、相談にのってやる、担任の先生とも相談する」

父母の望ましい心構え

前記にあげた①～⑨を強調して、不自然で好ましくない考え方や態度で進路決定に臨むことは、あまり良くありません。

そこで、進路決定に対する父母の望ましい心構え・姿勢をまとめてみます。

- ① 子どもの能力・適性などをよく理解する。
- ② 子どもの能力・適性に合った進路選択を助言する。
- ③ 親の欲目で、進路選択を決定しない。
- ④ 目先のことよりも、将来のことを考えて進路決定する。
- ⑤ 一流校偏重の考えだけでなく、子どもの特性や特色を考える。
- ⑥ 進路について親子が平素から話し合いを持ち、子どもの考え方を尊重する。

家庭での親の立場は？

1. 親の視野

親の視野が狭いと子どもの不安は募るばかりです。広い視野を持って子どもに接することが大切です。進路を子どもの一生の問題としてとらえる目が必要です。一人の人間が「どう一生を送るか？」という選択の第一歩としてとらえることです。

2. 自分を見せる親

自分の人生を生る形で子どもに語ることも必要です。そこで、親の人生観がにじみ出てきます。

3. 子どもへの対応

子どもに夢を語らせたり、夢を持たせることも大切です。勉強と成績だけでは夢は語れません。そこで必要になるのは、子どもの個性を発見してあげること、日常生活の中で子どもの輝く場面をつくることです。

4. 子育て

肉体的にも精神的にもたくましく育てることが必要です。では、どうしたらたくましく育つのか。生活のリズム、家庭学習、やる気(家庭円満)、豊かな心(家庭の文化)、逆境をつくる(温室育ちの撤廃)等を意識的に実行していくことが必要です。

受験生の親として

1. 生活のリズムをつくる

規則正しい生活習慣の定着を図る。起床・食事・学習・就寝の時刻を固定させる。

2. 将来について子どもと話し合う

高校に入って何を学びたいのか、将来どんな職業につきたいのかを一緒に考える。

3. 学校と先生を信頼する

受験情報は学校を情報源とする。保護者会や面談、PTA行事は可能な限り出る。

4. 最後まであきらめさせない

安易に志望校を決めたり、志望校の難易度を下げると選択肢を狭めることとなる。

他人と自分の子どもを比較せず、子どもの頑張っている姿を信じる。

ある親子の話

ある親子の話です。両親と男の子の三人家族でした。子どもが幼い頃、母親が突然病気で亡くなってしまい、それ以降、父と息子の二人で生活をしていました。

父親は仕事をし、悩みながら一生懸命に子育てに励み、母親がいなくても息子が立派な大人に育つよう努力しました。

父親は息子に対して、学校の成績には寛容でしたが、目上の人に対しての礼儀やあいさつは厳しくつけました。

息子が大学4年生の時、本人の希望職種である大手企業の就職試験を受けました。彼は、一流大学でもなく成績も優秀ではなかったのに、自信もなく期待はしていませんでした。しかし、本人の予想に反して内定を勝ち取ることができました。

不信に思った父親が、企業に問い合わせ、「息子は成績も優秀ではなかったのですが」と。それに対して人事部長は、「確かに成績だけを見ると息子さんより良い人はいました。しかし、我社は、あたり前の事をあたり前にできる人材を求めています。あなたの息子さんだけが、面接時に会社が用意した弁当に対して、『いただきます、ごちそうさま』を自然に手を合わせ、声を出してやっていました。お父さん、立派に育てましたね。』と言われました。

父親はその時、自分の子育ては間違っていなかったと思いました。



金中走大会(9月27日)